

重要湿地の選定（中間報告）

近年の湿原・干潟等の湿地の減少や劣化に対する国民からの保全を求める要請の高まり、平成 11 年 5 月に開催されたラムサール条約第 7 回締約国会議における登録湿地倍増を目指す決議等、国内外の湿地保全の気運の高まりを受け、国内の湿地について、専門家の意見を踏まえて、生物の生息地として規模の大きな湿地や希少種が生息する湿地などの重要湿地(500ヶ所)を選定した。(平成 13 年 10 月 11 日発表)

この重要湿地に関する情報は、我が国における保全施策の基礎資料となるものであり、保全地域の指定の検討等に活用するとともに、開発計画等における配慮を事業者に促すものとなる。

選定手順

- ・平成 11 ～ 12 年度に、湿地に係る分野毎の専門家 22 名からなる検討委員会（座長：辻井達一（北星学園大学教授））を設置し、重要湿地選定の基準を検討。
- ・分野毎の専門家（数百人）からのヒアリングを実施。
- ・分野毎に全国的視点から重要性を評価し、重要湿地を抽出。
- ・都道府県に照会し、指摘を踏まえたリストを中間報告（平成 13 年 10 月 11 日）。

重要湿地の選定基準

- 基準 1 ...湿原・塩性湿地、河川・湖沼、干潟・マングローブ林、藻場、サンゴ礁のうち、生物の生育・生息地として典型的または相当の規模の面積を有している場合
- 基準 2 ...希少種、固有種等が生育・生息している場合
- 基準 3 ...多様な生物相を有している場合
- 基準 4 ...特定の種の個体群のうち、相当数の割合の個体数が生息する場合
- 基準 5 ...生物の生活史の中で不可欠な地域（採餌場、産卵場等）である場合

選定結果

- ・全国で 500 ヶ所を重要湿地として選定。

活用方法と今後の予定

- ・我が国における保全施策の基礎資料となるものであり、環境省として保全地域の指定等に活用するとともに、重要湿地及びその周辺地域における開発計画等に際し事業者保全に配慮を促す。
- ・今回は中間的な公表であり、今後さらに情報を追加整理した上で、年内にインターネット自然研究所ホームページで公表する予定。

重要湿地（５００箇所）位置図

主な湿地タイプ	箇所数
湿原（雪田草原等を含む）	１０９
河川	７１
湖沼	７８
湧水地	２４
地下水系	６
塩性湿地	９
マングローブ林	２５
砂浜	１３
干潟	５０
藻場	１０３
サンゴ礁	２６
その他の浅海域	１２
ため池・水路など人工的な湿地	５３
計	５７９

* 複合する湿地タイプの箇所もあるので、合計数は５００
とは一致しない。

